

飯舘村モニタリングセンター 設立と運用

2013年2月22日

飯舘村 菅野宗夫

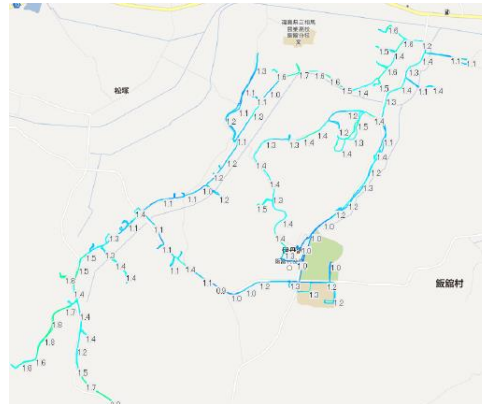
モニタリングセンター設立の目的

- 飯舘村が責任主体となり、飯舘村村民・各省庁・福島県・民間ボランティア・個人などが計測している放射線測定データを集約し、総合的に校正・分析を加え、飯舘村村民、関係者、社会に広く公開し、生活や産業活動の再生に役立てる。

モニタリングセンターのコンセプト



国による測定



村民自身による測定



再生の会による測定

統一的な基準で校正
→データに対する信頼感の確立
→コミュニケーションの基盤

モニタリングセンターがカバーする範囲

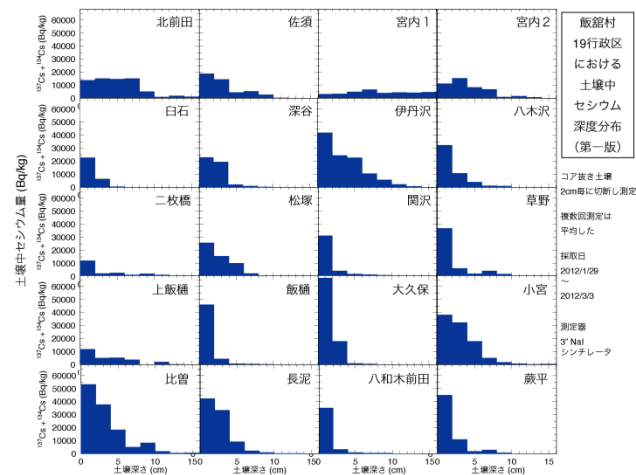
- 生活空間の線量データ
- 土壌放射能
- 空気の放射能
- 食品の放射能
- 水の放射能
- 動植物の放射能



エアロゾル

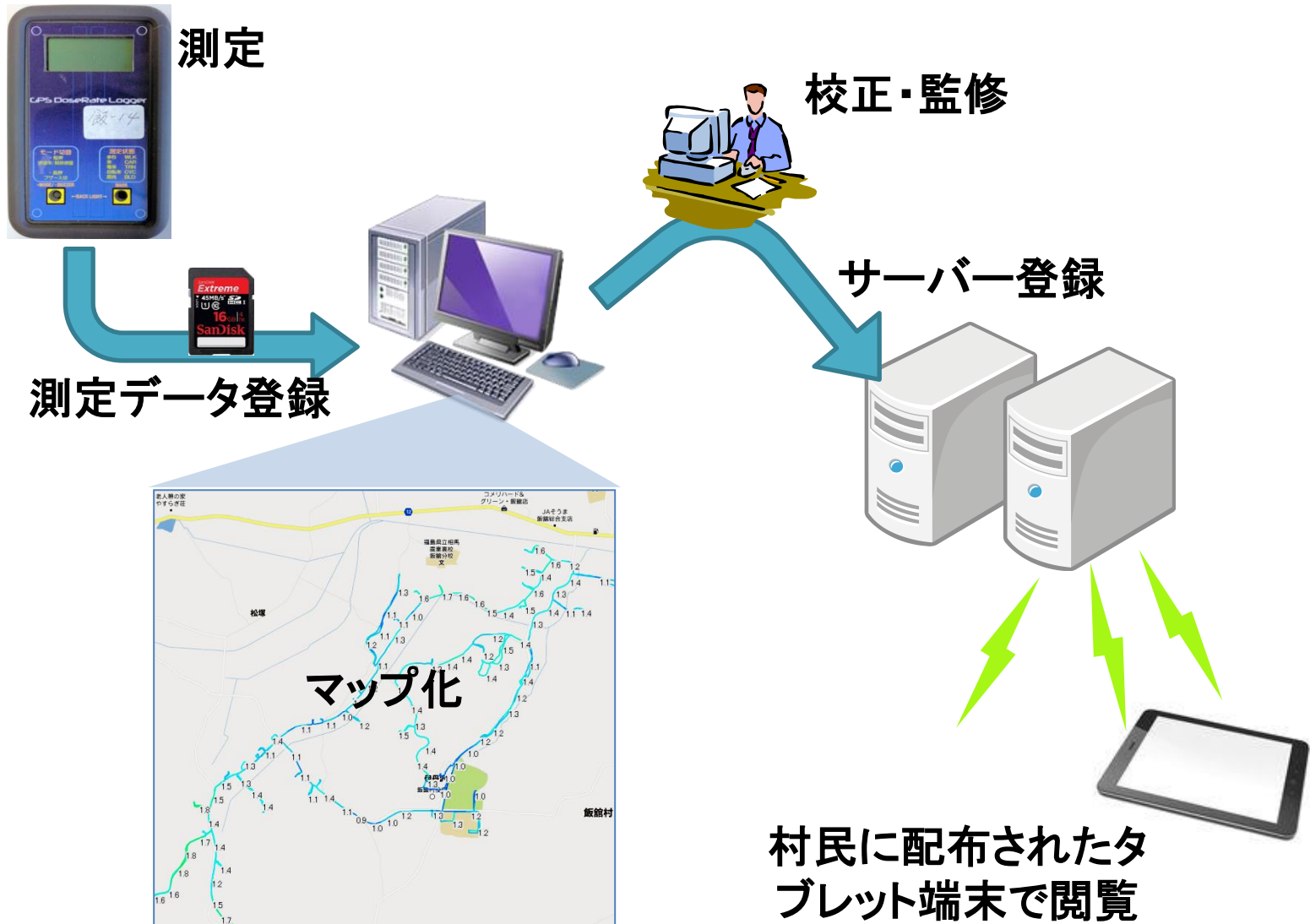


イノシシの解剖・測定



村内20地区の土壌放射能測定

モニタリングセンターシステムの概要



線量測定器



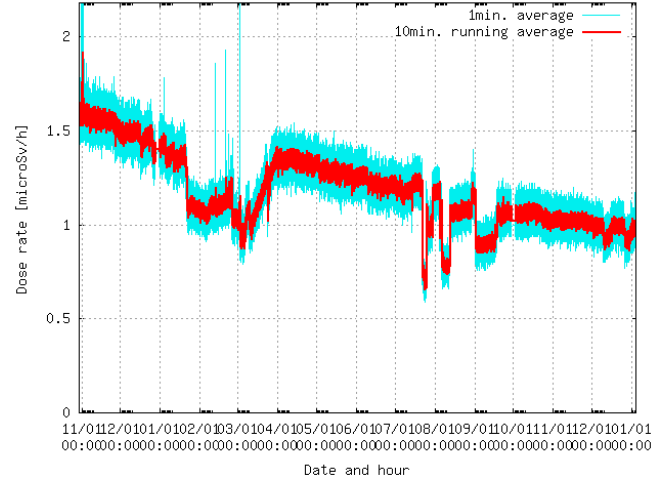
携帯型モニタ
GPSを内蔵し、
位置と線量を自
動的に記録



GPSデータロガー
高性能線量計に取り付け、
位置と線量を自動的に記録

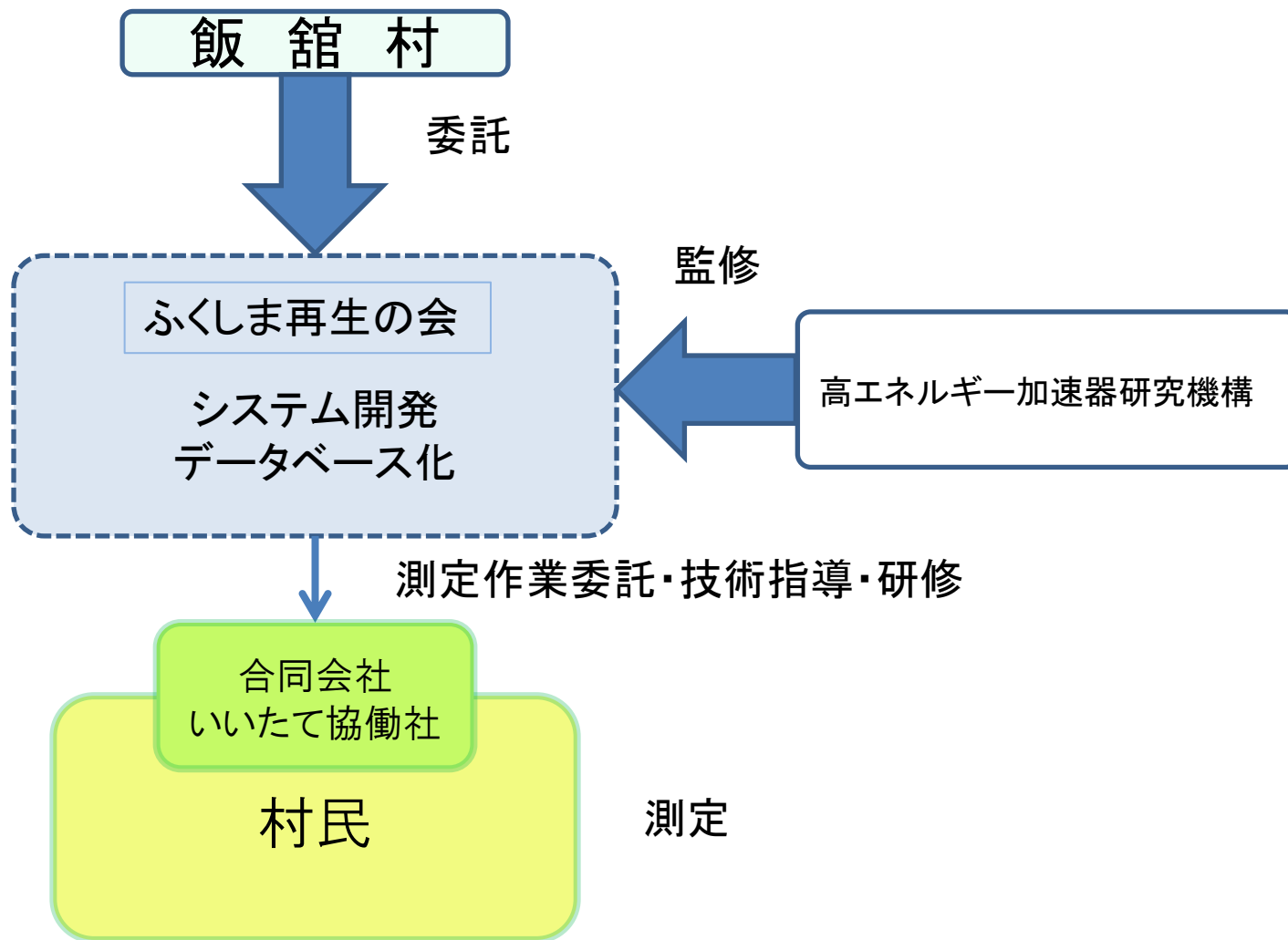


定点観測モニタ
気象データと線量を自
動的に記録し、サー
バーに送信



定点観測モニタ
高性能GM管モニターで
線量を自動的に記録し、
サーバーに送信

モニタリングセンター開発運用体制



技術指導・研修

1月30日 報告:菅野宗夫

●放射線講習会

1月26～27日、見守り隊詰所となっている「いちばん館」において開かれた放射線説明会を大好評のうちに終えることができました。

今回の取組みは、飯館村からの委託事業である「20行政区全ての生活路線モニタリング」の村民による計測にあたっての説明会で、高エネルギー加速器研究機構の岩瀬広さんを講師に迎えて実施されました。



放射線講習会(クリックで拡大)

村の担当者からは、測定員だけでなく村民向けも合わせて実施して欲しいとの要望もあり、企画・準備にあたっては、各行政区の測定員の都合にあわせて4回をセット、再生の会で準備したハツラツと明るく質問する子供の写真入り開催チラシ、岩瀬さんには特に周到な準備をしていただきました。

説明会は詰所の団楽場所(テレビなどが置かれている場所)で行われ、そのセッティングには見守り隊が進んで協力されてのスタート……。

岩瀬さんの講話は手書きの絵を多く取り入れた投影機を使ってのパソコンプレゼンです。

飯館から避難しなければならないほどの、そして一人ひとりの気持ちをバラバラにするほどの被害をもたらした放射能と放射線(言葉)についてわかりやすく説明をされ、それがどのように身体に影響するのかその中でモニタリングの必要性と継続性などについてお話をされ、要所要所での質問を受けながらの講話は、大好評でした。

岩瀬さん、誠にありがとうございました。

今回、この説明会開催は大きな意義を含んでいるととらえて開催致しました。

村委託事業を受けるまでになつたふくしま再生の会の活動ですが、委託を請ねることよりもっと大きく広く村民に認めてもらい期待される活動、そして村民との協働による再生活動への第一歩となるものと位置づけ開催しました。

科学者から正確に、事故がもたらした放射性物質がどのような形で身体に影響与えるのかを中心に説明をして頂き、精神的にも悪い不安を軽減させてくれた講話でした。

科学者岩瀬さんの手法、話術に感激です。ある行政区からは総会時に講話をお願いしたい旨の申し出もあり、また詰所事務局には、もっと早くから開催がわかるようにして欲しかったなどという隊員からの要望もあったようです。

このような放射線の勉強会を手始めに、ふくしま再生の会活動の多くの試みから得られた成果や実態を村民に伝えることが重要かと思えます。

村民測定員を対象とした測定講習会に合わせて、測定員以外の村民も参加して「放射線講習会」を開催。

モニタリングデータの活用

- 身近な場所の線量を知る
- 線量の変化を知る
- 除染の効果を確認する



生活再生・産業再生につなげていく

実態を正確に知るためには、
長期的＋継続的な取り組みが必要

村民主体による村民のための活動

- 土壌・作物・動植物などの放射能を測定し、分析する村民主体の信頼できるセンター

総合分析センター：

土壌・水・大気・森林・農作物・動植物などの放射能量の測定依頼を引き受け、その総合分析を担う。

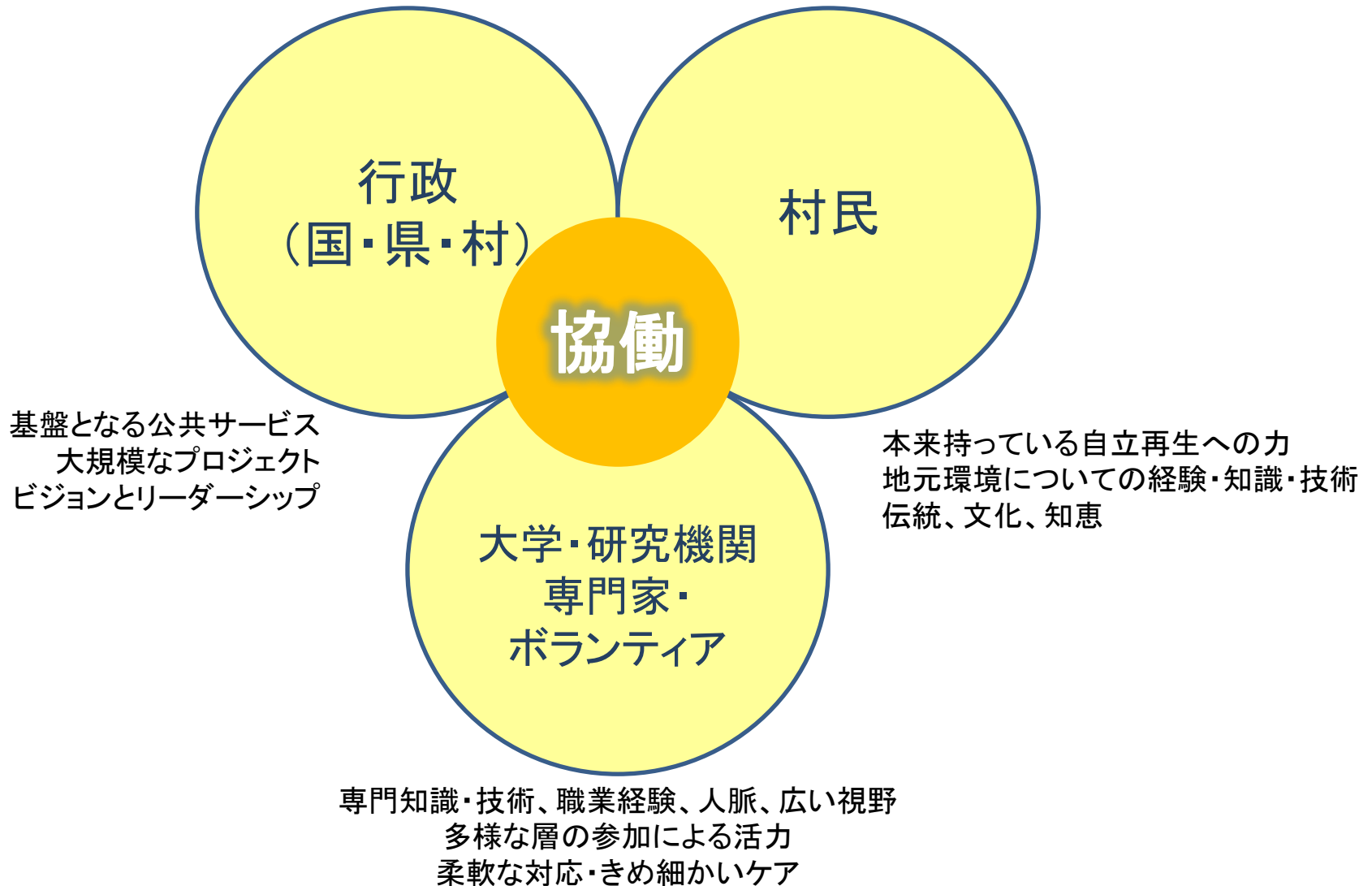
地域情報センター：

避難中の住民・支援者・外部関係者が、被災地域の情報を見たり相談できる施設。



「いちばん館」で開催された放射線講習会

協働による再生への道



まとめ：モニタリングセンターの意義

- 広域(国)、詳細(村民)による測定
 - … 任務分担
- きめ細かな生活空間線量の把握
 - … 現実を知る
- 国の責任での事業継続が必要
 - … データの継続的活用

村民参加により引き出される

「ふるさとを思う気持ち」

「再生への意欲・力」